

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	Grabity LiVE		
○保護者評価実施期間	令和6年1月1日		令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	令和6年1月1日		令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが快適に過ごせる清潔な環境が整備されており、活動内容に応じた空間づくりが行われている。	事業所利用時には運営規程や支援プログラムについて丁寧に説明し、支援内容を保護者と共有する姿勢が意識されている。	保護者様や子どもとのコミュニケーション方法を見直し、定期的なフィードバックや情報共有の機会を増やすことで信頼関係をさらに深める。
2	子どもの特性を十分に理解し、個別のニーズに応じた専門的な支援が提供されていることが評価されている。	職員が子どもたちに対して共感的な姿勢で関わり、子どもが安心して過ごせる環境をつくる工夫がなされている。	ペアレント・トレーニングや家族参加型の研修会を定期的に行い、保護者の学びや交流の場を提供する。
3	放課後等デイサービス計画(個別支援計画)が適切に作成され、その計画に基づいた支援が確実に実施されている。	子どもたちが事業所に通うことを楽しみにしているという結果から、活動内容が楽しく、魅力的であることが意識されている。	子どもにわかりやすい環境づくりや、障碍特性に応じたバリアフリー対応を進め、誰もが安心して過ごせる施設づくりを目指す。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもや保護者との意思疎通や情報伝達の工夫が不十分で、必要な情報が適切に共有されていない場合がある。	保護者様や子どもとの情報共有の場や方法が体系化されておらず、継続的なコミュニケーションが課題となっている。	定期的な面談や連絡帳、ニュースレターなどを活用して、子どもや保護者との情報共有を強化する。また、相談しやすい環境づくりも重要。
2	保護者会や父母の会の支援、きょうだい向けのイベントが不足しており、家族全体へのサポートが限定的である。	家族支援プログラムの重要性が十分に認識されておらず、リソース不足や時間的制約によって実施が後回しになっている。	保護者様向けの研修会、交流イベント、きょうだい支援プログラムなど、家族全体を対象とした支援を計画的に実施する。
3	生活空間が子どもにわかりやすく構造化されておらず、障碍特性に応じた配慮(バリアフリー化や情報伝達支援)が十分に行われていない。	障碍特性に応じた物理的環境の整備や視覚的サポートの導入が十分に検討されておらず、環境構造化の意識が不足している。	施設内のバリアフリー化や、子どもがわかりやすい構造化された環境(視覚支援ツールの活用など)を取り入れることで、すべての子どもが安心して過ごせる空間を整備する。